

津幡の空から

石川県学校生活協同組合

2019・1月号

石川県学校生活協黒字化3か年計画の最終年
新年あけましておめでとうございます。
 またまた社会貢献「子ども食堂」に援助



12月13日(木)午前10時に、石川県学校生活協企画本部で提唱された「子ども食堂」への食材提供が実現しました。

冬晴れの朝、津幡町で「木のおうち」を運営する代表の兼氏浩子(かねうじひろこ)さんが来協されました。「木のおうち」とは、児童発達支援・放課後等デイサービス事業などを営む兼氏さんが津幡町中橋で始めた子ども食堂の名称です。18歳以下は無料、30食限定で、毎月第一、第三の水曜日に実施されています。子どもだけでなく、年齢・世代に関わらず、人とのつながりを持ちたい人にも参加を呼び掛けており、大人は500円です。食材はいずれももらいもので、地元のボランティア6人が近くの公民館の調理室でこしらえています。学校生活協が用意したトランクいっぱいの食材に謝意を述べられました。

提供できた食品は、①鶏五目御飯の素30人前 ②ゼリー120個 ③正月御餅セット2箱
 ④ジャム7瓶 ⑤小豆島そうめん約2kg×2箱 ⑥讃岐うどん24食
 ⑦百万石ラーメン16食 ⑧その他段ボール詰め合わせ(カレー・味噌汁味付け海苔・せんべい・鯛だし)×2箱

これからも、出来る限り援助していく方向です。本年も、学校生活協をよろしくお願い申し上げます。

2018年度12月末決算 892万円の赤字。計画目標より448万円の悪化。

石川県学校生活協の2018年度12月末決算は経常損失金▲892万円です。計画は▲443万円ですから▲448万円の悪化です。12月の業績悪化の原因は、供給高の数値は確保できましたが、供給剰余金が前年より減少して利益の確保むずかしくなっています。反面、物件費は年末配送費がふくらみ経営はたいへんきびしい状況です。供給高と剰余はアップダウンを繰り返しています。一喜一憂しながらも、年度末には25万円の黒字をゴールにたどり着きたいと頑張っています。

みなさんの石川県学校生活協です。石川県学校生活協をもっともっと利用してください。お願いします。

石川県学校生活協同組合は、県内の教職員を対象とした職域生協です。学校という職場の中で教職員の生活を共同で守り向上させることを目的に結集した福利厚生組織であり、石川県の教職員の自主福祉活動や消費者運動の拠点になっています。

シリーズ 第5回 《ムンク》 北本 豊春

現在、上野の都立美術館では、ムンクの特別展が開催されています。今回は飛び込みと言う形で、この興味深い画家に関してお話し致します。エドヴァルト・ムンクは、一八六三年にノルウェーに生まれ、八〇才でなくなるまでに、一一五〇点以上の作品を描きまわっています。代表作は『叫び』ですが、この作品は四枚描かれ、貫く叫びに底知れない恐怖を覚えている絵を描いたと、ムンクは語っています。耳を押さえているのは、『ムンク自身です。特別展第五展示室では、『抱擁』『吸血鬼』と言った一連の名作が展示されています。ともに鑑賞した女性が、「感覚がおかしくなる」と不安がりました。ムンクは、象徴主義・表現主義の画家であり、内面にある心象を描き出す画家です。見たものを写し取るのではなく、目にするものを、ムンク自身の心の動きに従って描いていくのです。『抱擁』では、いつの間にか溶け合い、一体となる男女の愛の激情を描きます。『吸血鬼』では、男の生き血を吸って同化・制圧しようとする、女性の情念と、気だるい心地良さのままに、血液を抜き取られる男の快楽に沈む姿を描いています。ムンクの心象の生々しさに触れて、鑑賞する女性が「感覚がおかしくなる」と感じたのは、とてもよく理解できることです。国立西洋美術館で「ルベンス展」上野の森美術館で「フェルメール展」が同時開催。どこも盛況で上野の森は賑やかです。

編集後記 新しい視点で頑張ります。

2019年があけました。本年も学校生活協をよろしくお願いたします。

さて、私事ですが、1月11日に左目、18日に右目の白内障の日帰り手術をします。なぜ今受けるのかと言えば、去年の自動車免許更新の時に、大聖寺警察署で0.7の記号が見えなくて失格しました。そこで、すぐにメガネを代えることにしました。しかし、めがね屋さんは、「この目ではこれが限界です。検査の時は目を休めてからの検査をおすすめします。」と言われ、再度の検査で何とか合格したのです。これではいけないと、目医者さんに行くことしました。そこでは、強度の近眼の上に、白内障になっているので、手術をしたら良いとアドバイスを受け、手術をすることにしました。それが、先の日程なのです。いろいろな人に聞くと、「白内障は病気ではない」手術も簡単だと言われました。そうであってほしいと願っています。次号を書くときには、新しい視点で文章が書けるのではないかと、楽しみにしています。(ほその)